

地 質 断 面 図 (5 断 面)

測線 (比抵抗二次元探査測線 A)

測線 (比抵抗二次元探査測線 B)

測線 (比抵抗二次元探査測線 C)

測線 (比抵抗二次元探査測線 D)

測線 (比抵抗二次元探査測線 E)

測線 (比抵抗二次元探査測線 A)

調査地中央付近の東 - 西測線で、0mが青森側である。

60～100mにはパークや汚泥の廃棄物が、GL-3.0～-5.0m程度まで分布しており、表層から3.0m厚で覆土されている。また、220m付近のF区では約5.0m厚の汚泥が廃棄されている。

地山はローム質の降下火砕物1が優勢で、約3.0m厚の μ ミ層 (降下火砕物2) を挟んでいる。この μ ミ層は、見掛け傾斜約 10° で西に傾いている。

基盤層は安山岩礫を含む凝灰角礫岩で、西に緩く傾いている。含まれる安山岩礫は硬質であるが、基質は軟質である。

測線 (比抵抗二次元探査測線 B)

調査地南側の東 - 西測線でM・N地区とO地区を横断する測線である。

110～270m付近では、最大層厚約4.0mのパーク・汚泥様の廃棄物が分布し、その下には、最大5.0m程度の埋土が分布しており、造成に伴う排土と思われる。

地山は μ ミが優勢な降下火砕物2が主体でローム層が挟まれる形で分布する。 μ -リング M3(1-36M) 付近を境として、西側では地層が緩く西に傾き、東側では東に緩く傾斜していると推定される。

基盤層は凝灰角礫岩とその下位に凝灰岩が分布している。いずれも東へ緩く傾斜しているが、青森側では西へ傾斜していると推定される。凝灰角礫岩は硬質な安山岩礫を伴い、 μ -リング M3(1-36M) 付近から西では軟質風化土が約11.0mの厚さで分布する。凝灰岩は硬質礫を含まず比較的強く膠結している。

測線 (比抵抗二次元探査測線 C)

D～H地区を横断する東 - 西側線である。40～130m区間のD地区ではパークを主

体とする廃棄物層が最大約14.0mの厚さで分布する。部分的に4.0m未満の覆土で覆われている。H地区では4.0m程度の厚さで埋土（造成）されているが廃棄物の混入は認められない。

地山の最上部には H° ミ優勢の降下火砕物2が分布し、その下にローム優勢層が厚く分布する。

基盤層である凝灰角礫岩は標高430～450mに分布するが、200m付近を境に東西に緩く傾斜する。

測線（比抵抗二次元探査測線D）

A～B地区を横断する東－西側線である。

A、B地区ともバークを主体とする廃棄物が広範囲に分布する。A、B地区とも最大10m程度厚さで廃棄物層が分布し、B地区ではほぼ等深度であるのに対し、A地区ではトレンチ状に掘削した箇所に廃棄物が埋められている。B地区の廃棄物層中（GL-3.0～-6.0m付近）には汚染水が宙水的に貯留している場合が多い。

地山の最上位は H° ミ優勢の降下火砕物2で下位には、火山灰薄層が挟在する粘土質のローム層が基盤層まで分布している。地層の傾斜は西～南西へ 15° 程度であり、 H° ミ層や火山灰薄層が廃棄物と接している場合には、西側に浸透水が流出することになる。

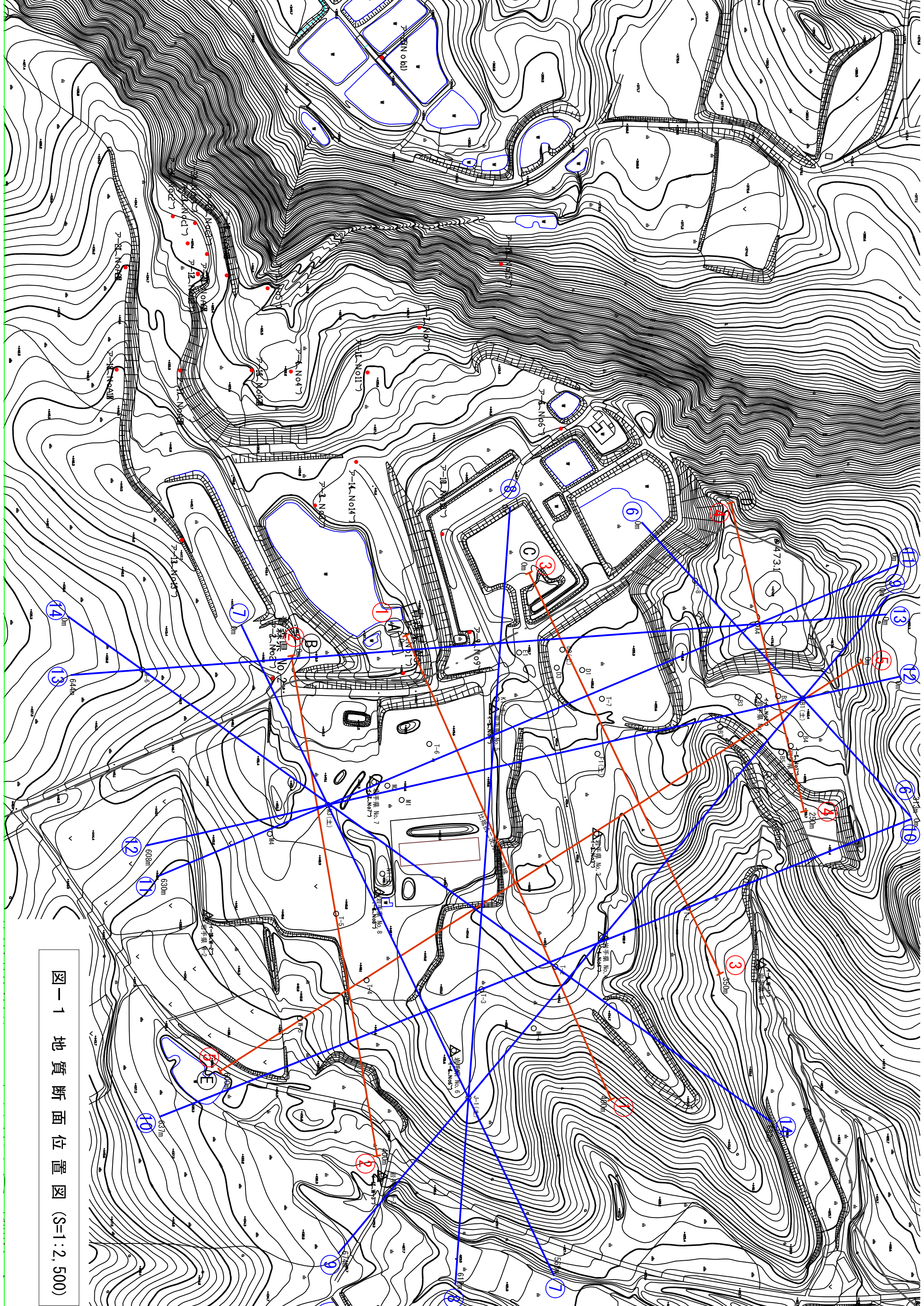
基盤層は硬質安山岩礫を伴う凝灰角礫岩である。また、A、B地区の境界付近には比抵抗二次元探査の結果、低比抵抗の箇所が存在し地質的弱層の可能性もあり今後の精査が必要である。

測線（比抵抗二次元探査測線E）

調査地中央の南－北側線である。廃棄物層はB区が最大で、バーク層の下に一部焼却灰が廃棄されている。

地山はローム優勢層（降下火砕物1）と H° ミ優勢層（降下火砕物2）からなり、互層状に分布している。見かけ上、地山の傾斜は南へ緩く傾斜しており、南端でややうねっている。

基盤層は凝灰角礫岩とその下位に分布する凝灰岩である。多少凹凸はあるものの、全体的には見かけ上南へ緩く傾斜している。

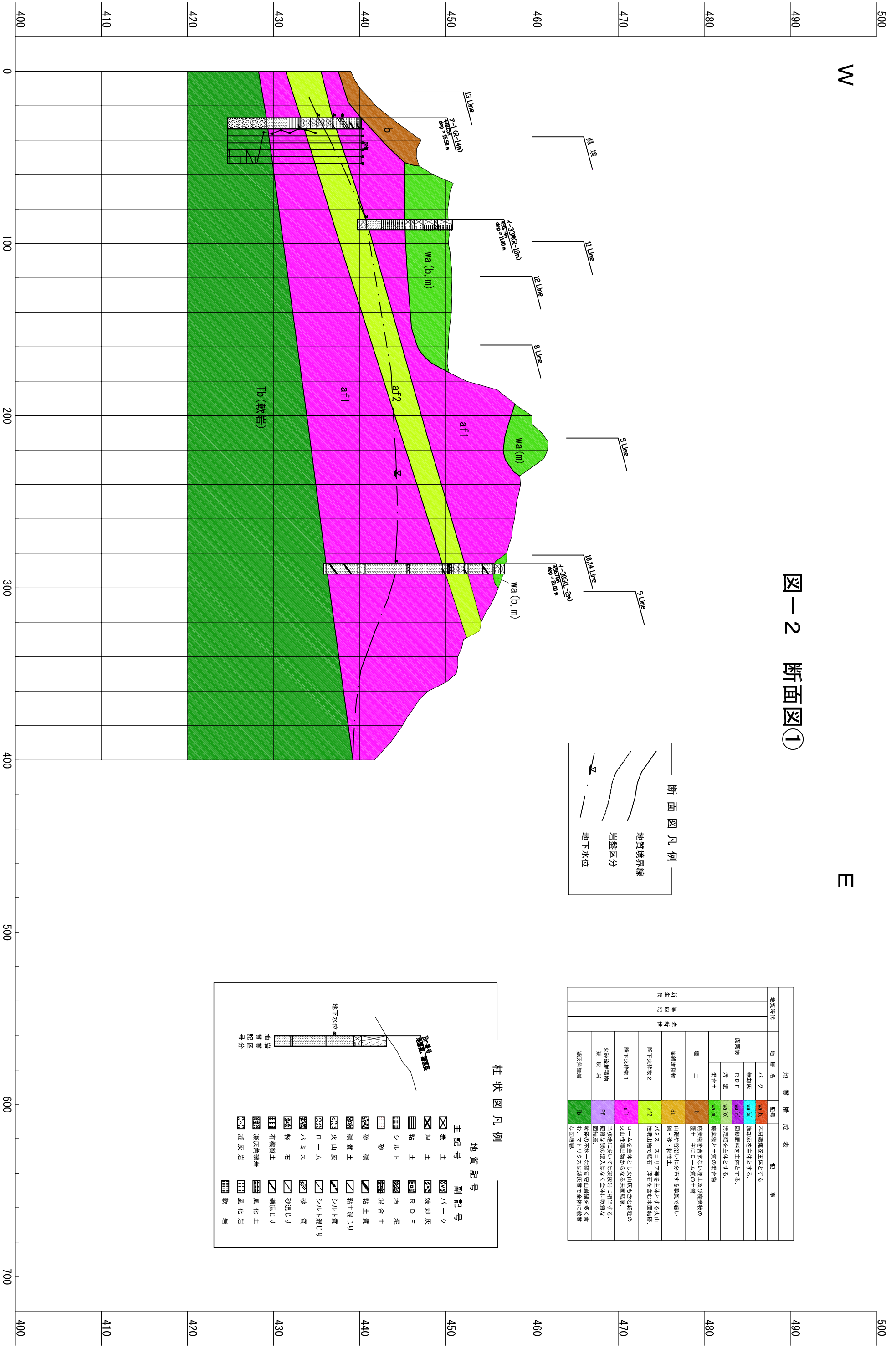


图一 1 地質断面位置图 (S=1:2, 500)

W

E

図-2 断面図①



断面図凡例

- 地質境界線
- 岩盤区分
- 地下水位

地質構成表				
地質時代	地層名	記号	記号	備考
新第四紀	ハーク	wa(b)	wa(b)	木村組層を主体とする。
	焼却灰	wa(b)	wa(b)	焼却灰を主体とする。
更新世	RDF	wa(f)	wa(f)	円形肥球を主体とする。
	浮泥	wa(f)	wa(f)	汚泥類を主体とする。
更新世	混合土	wa(f)	wa(f)	廃棄物を含まない埋土及び廃棄物の混合物。
	埋土	b	b	廃棄物を含まない埋土及び廃棄物の埋土。主にローム質の土質。
	道徳堆積物	dt	dt	山裾や谷沿いに分布する軟質で細かい礫・砂・粘性土。
	降下火砕物2	af2	af2	ハミス、ヌゴリ等を主体とする火山性噴出物で礫石・浮石を含む未固結層。
更新世	降下火砕物1	af1	af1	ロームを主体とし火山灰も含む細粒の火山性噴出物からなる未固結層。
	火山気堆積物	Pf	Pf	当該層においては凝灰岩に相当する。噴出物の堆入は大きく主体に収積ない。程度の不均一な凝灰火山噴出物を多く含む。ヌゴリ質は凝灰質で主体に収積ない固結層。
	凝灰角礫層	Tb	Tb	

柱状図凡例

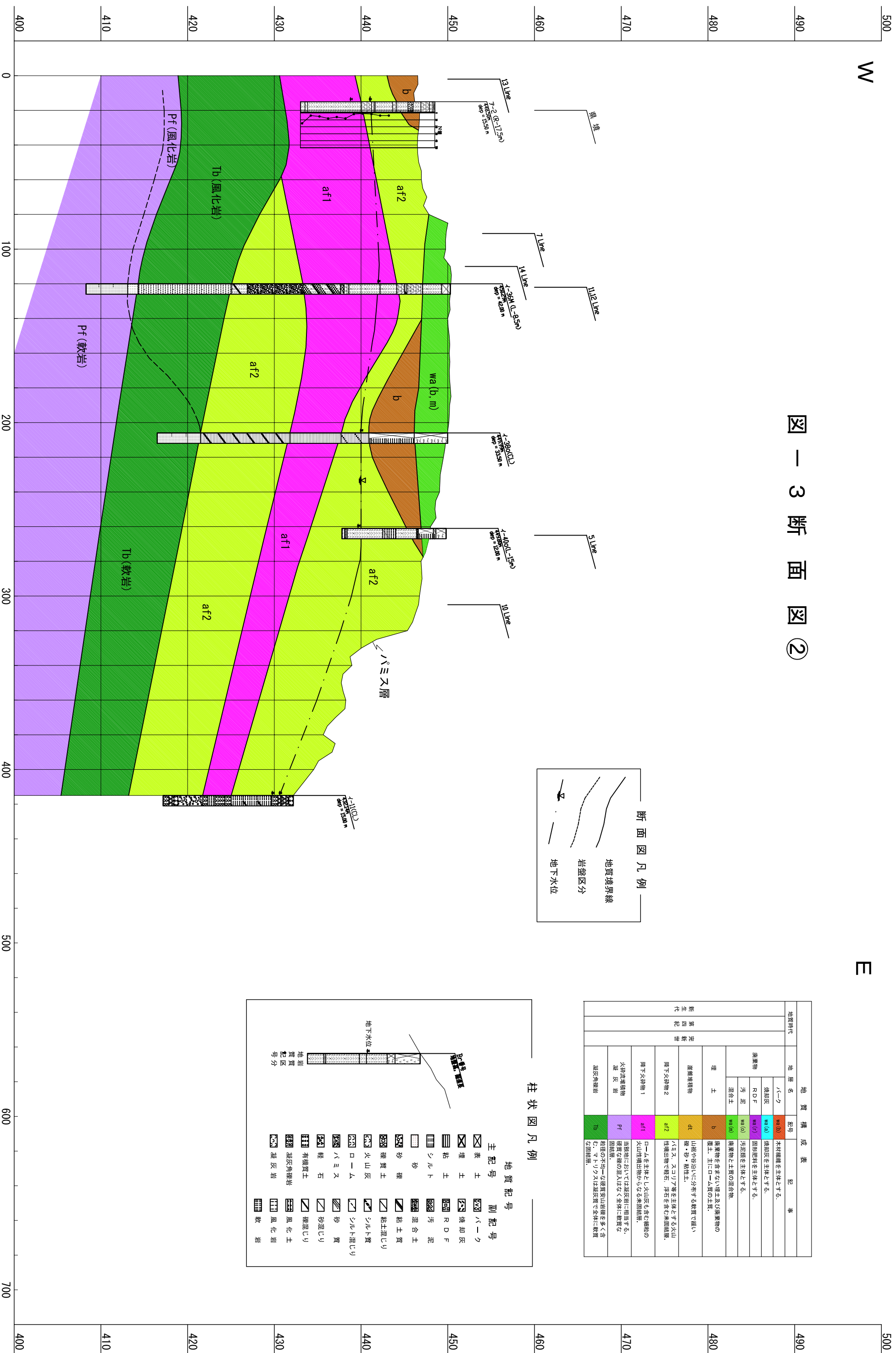
主記号	副記号	地質記号
表土	ハーク	wa(b)
埋土	焼却灰	wa(b)
粘土	RDF	wa(f)
シルト	泥	wa(f)
砂	混合土	wa(f)
礫	粘土質	wa(f)
礫質土	粘土混じり	wa(f)
火山灰	シルト質	wa(f)
ローム	シルト混じり	wa(f)
ハミス	砂質	wa(f)
軽石	砂混じり	wa(f)
有礫質土	礫混じり	wa(f)
凝灰角礫岩	風化土	Tb
凝灰岩	軟岩	Tb

縮尺 H=1:2,000, V=1:400

W

E

図 1-3 断面図 ②



地質構成表			
地質時代	地層名 記号		
新 世	ハーク	9a(0)	木材繊維を主体とする。
	焼却灰	9a(2)	焼却灰を主体とする。
第四紀	ROF	9a(1)	固形肥料を主体とする。
	汚泥	9a(0)	汚泥を主体とする。
更新世	混合土	9a(0)	廃棄物と土質の混合物。
	埋土	b	廃棄物を含まない埋土及び廃棄物の埋土。主にロー入質の土質。
第四紀	産業堆積物	dt	山堀や谷間に分布する軟質で軽い埋・砂・粘性土。
	降下火砕物 2	af2	パミス、スコリア等を主体とする火山性噴出物からなる未固結層。
第四紀	降下火砕物 1	af1	ロー入を主体とし、火山灰を含む粗粒の火山性噴出物からなる未固結層。
	火砕流堆積物	Pf	当該地においては崩壊等に相当する。後発の礫の混入は全くまれに散見する。固結層。
第四紀	凝灰岩	Pf	柱状の不均一な凝灰質山崩壊を多く含む。マフィアは凝灰質で全体に軟質な固結層。
	凝灰角礫岩	Tb	

柱状図凡例

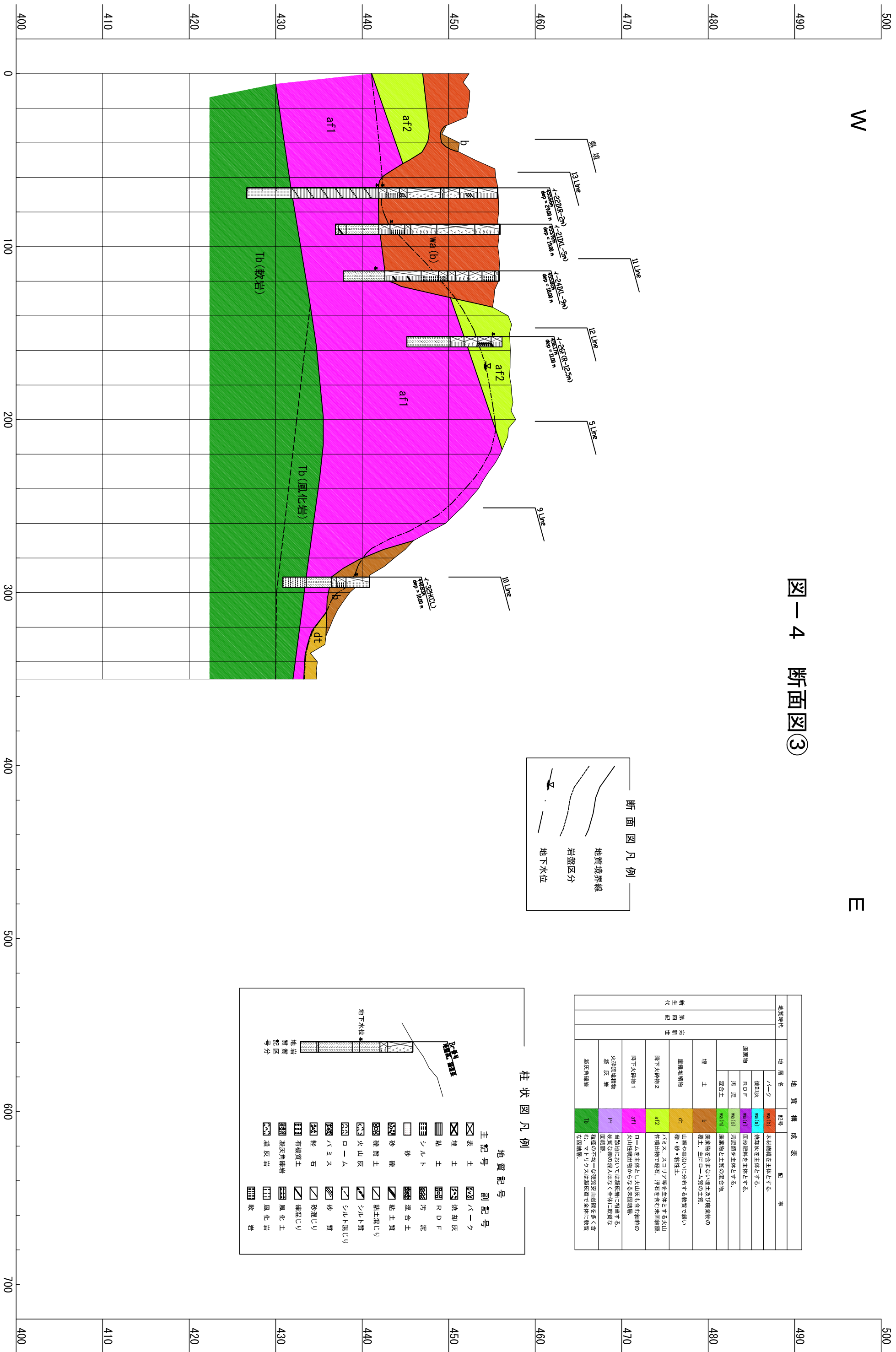
地質記号	
主記号	副記号
☒	バーク
☒	焼却灰
☒	ROF
☒	泥
☒	混合土
☒	粘土質
☒	粘土混じり
☒	砂
☒	砂礫
☒	凝灰土
☒	火山灰
☒	ローム
☒	シルト質
☒	シルト混じり
☒	シルト
☒	汚泥
☒	粘土質
☒	砂質
☒	砂混じり
☒	砂質
☒	有機質土
☒	凝灰角礫岩
☒	凝灰岩
☒	風化土
☒	風化岩
☒	軟岩

縮尺 H=1:2,000, V=1:400

W

E

図一4 断面図③



地質構成表	
地層時代	地層名
新第四紀	ハーク
	焼却灰
完新世	ROF
	汚泥
埋土	混合土
	b
	dt
	埋土
新第四紀	地下火砕物1
	地下火砕物2
埋土	af1
	Pf
埋土	af2
	Tb

地層名	記号	事
ハーク	no(0)	木材繊維を主体とする。
焼却灰	no(1)	焼却灰を主体とする。
ROF	no(2)	固形肥料を主体とする。
汚泥	no(3)	汚泥を主体とする。
混合土	no(4)	廃棄物と土質の混合物。
b	no(5)	廃棄物を含まない埋土及び廃棄物の埋土。主にローソク質の土質。
dt	dt	山道や谷沿いに分布する軟質で細かい礫・砂・粘性土。
af2	af2	ハミス、スクリア等を主体とする火山性噴出物で軽石、浮石を含む未固結層。
af1	af1	ローソクを主体とし、火山灰を含む粗粒の火山性噴出物からなる未固結層。
Pf	Pf	当該地においては遠反樹に相当する。埋土質の混入はなく全体に軟質な固結層。
Tb	Tb	前後の不均一な遠反樹を多く含む、マトリクスは遠反樹で全体に軟質な固結層。

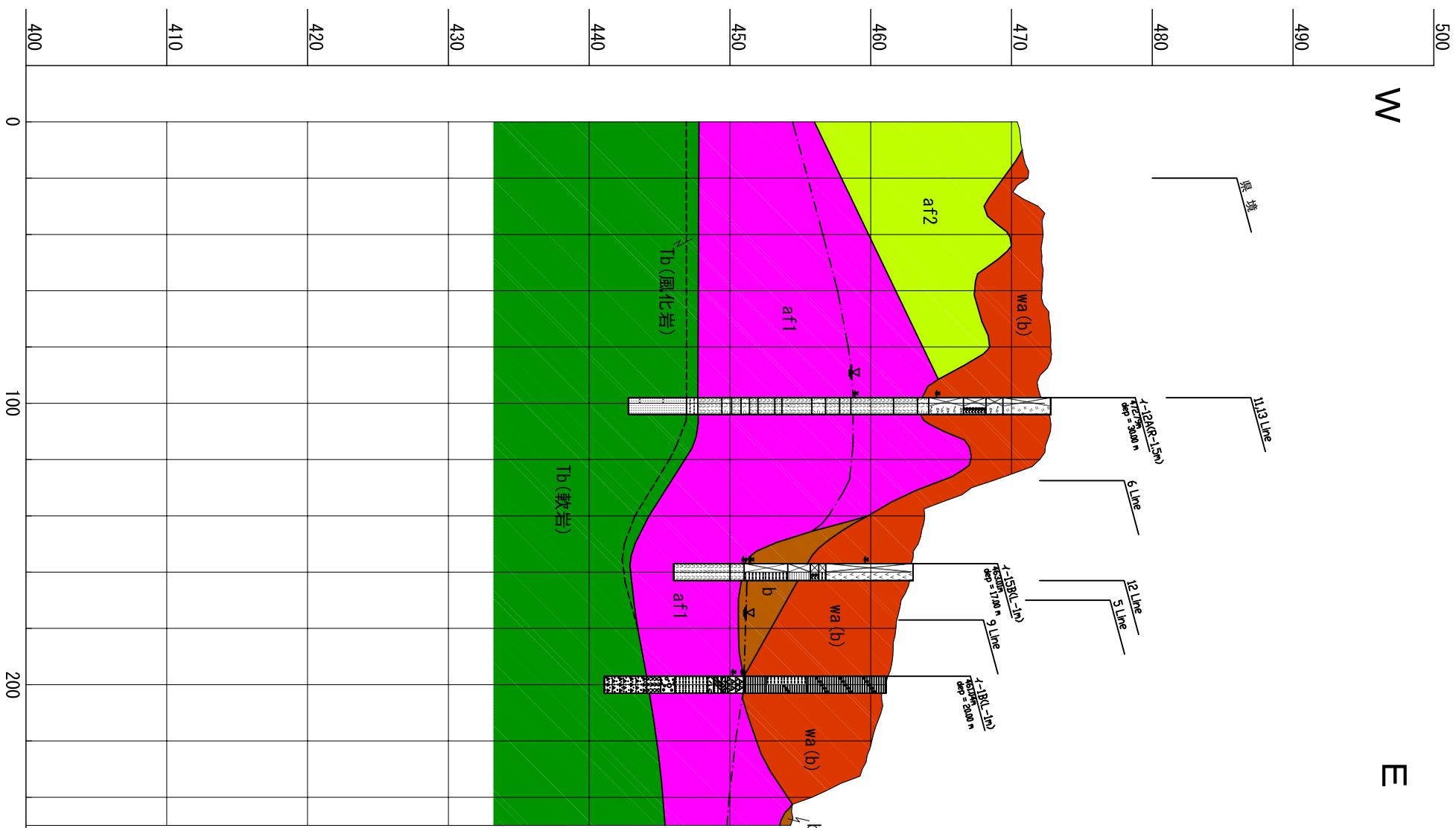
柱状図凡例

地質記号	
主記号	副記号
表土	ハーク
埋土	焼却灰
粘土	RDF
シルト	泥
砂	混合土
砂礫	粘土質
礫質土	粘土混じり
火山灰	シルト質
ローム	シルト混じり
ハミス	砂質
軽石	砂混じり
有機質土	礫混じり
有機質土	埋土
埋土有機質	風化土
埋土有機質	風化岩
埋土有機質	軟

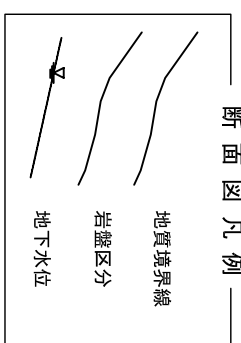
縮尺 H:1:2,000, V:1:400

W

E



断面図凡例



地質時代		地質構成表	
地層名	記号	記号	事
第四紀	バーン	wa(b)	木材繊維を主体とする。
	焼却灰	wa(a)	焼却灰を主体とする。
	RDF	wa(f)	固形肥料を主体とする。
完新世	汚泥	wa(o)	汚泥類を主体とする。
	混合土	wa(m)	廃棄物と土質の混合物。
新生代	埋土	b	廃棄物を含む埋土及び廃棄物の覆土。主にローレンスの土質。
	崖崩壊堆積物	dt	山崩れや谷崩れに分布する軟質で緩い埋土。粘土。
	降下火砕物2	af2	ハミス、スコリア等を主体とする火山性噴出物で軽石、浮石を含む果面粗麻。
	降下火砕物1	af1	ローレンを主体とし火山灰を含む粗麻の火山性噴出物からなる果面粗麻。
完新世	火砕流堆積物	Pf	当該地においては建灰層に相当する。建灰層の混入は全く全粒に軟質な面粗麻。
	凝灰岩	Tb	知事の不均一な建灰層を多く含む。マトリクスは建灰質で全体に軟質な面粗麻。

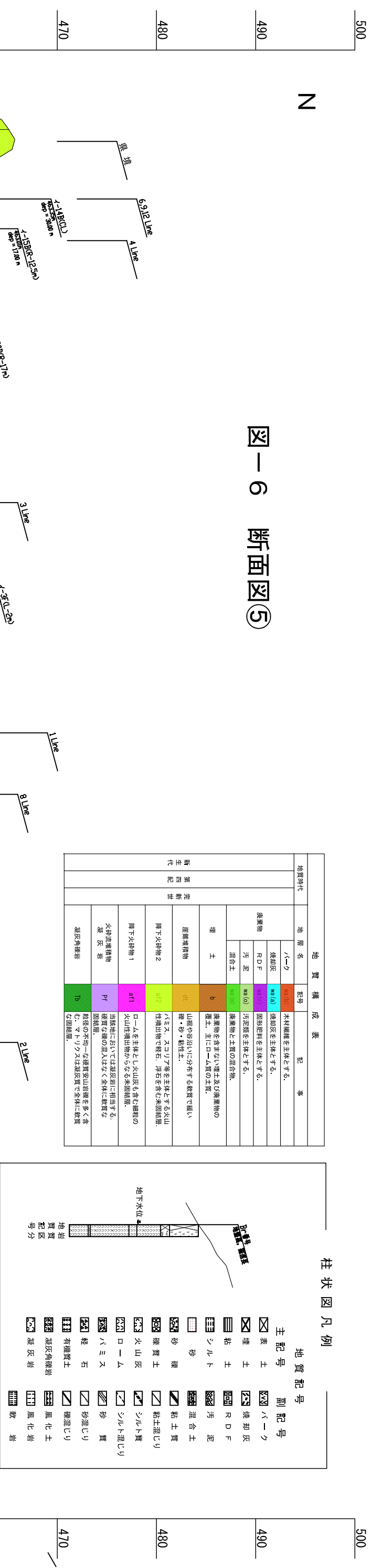
柱状図凡例

地質記号	
主記号	副記号
埋土	バーン
粘土	焼却灰
シルト	RDF
砂	泥
砂礫	混合土
堆積土	粘土質
火山灰	粘土混じり
ローレン	シルト質
ハミス	シルト混じり
軽石	砂質
有機質土	砂混じり
凝灰角礫岩	凝混じり
凝灰岩	風化土
	風化岩
	軟岩

縮尺 H=1:2,000, V=1:400

N

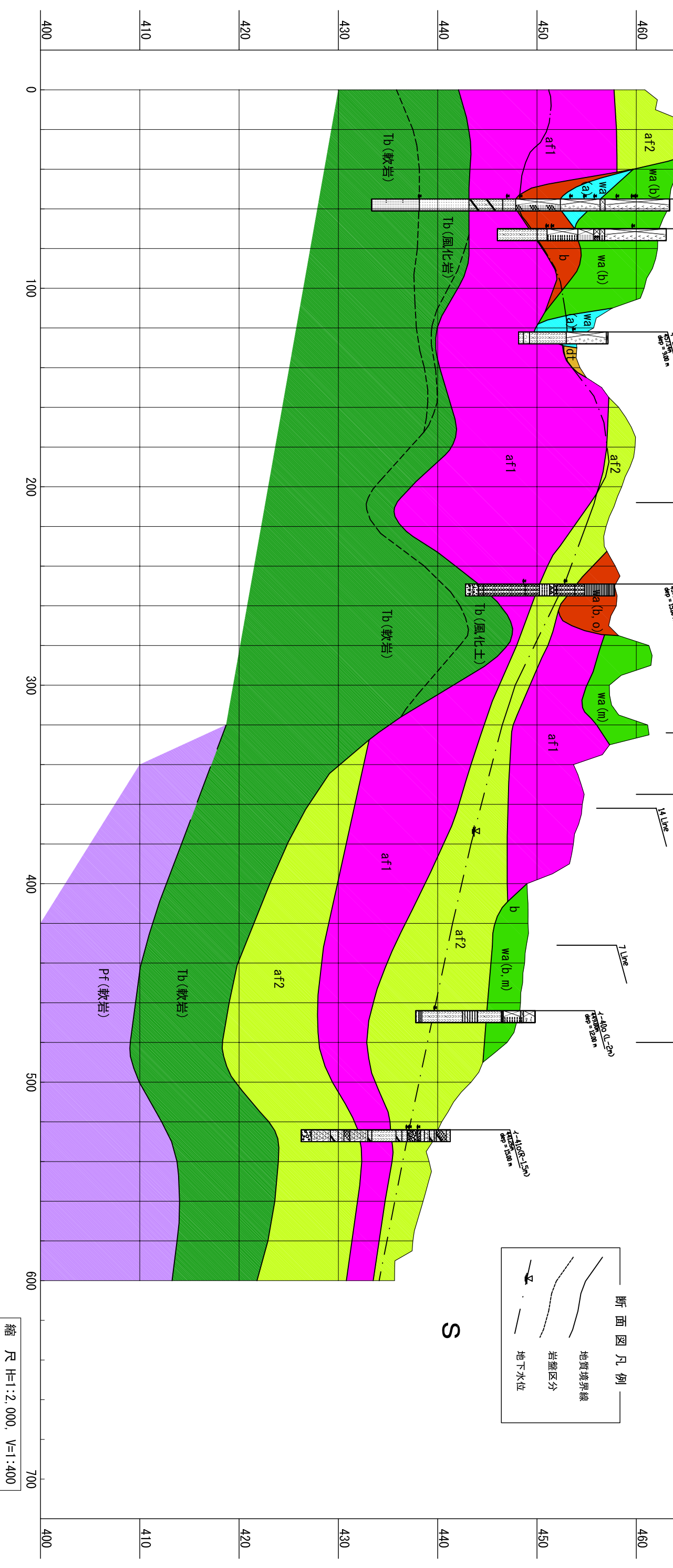
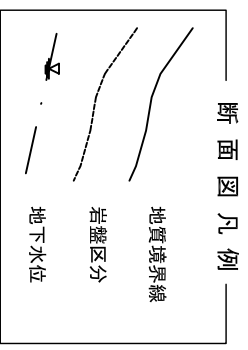
図一6 断面図⑤



地質構成表		記号		事	
地質時代	地層名	記号	記号	事	事
第四紀	バーク	wa(b)	wa(b)	大粒凝灰を主体とする。	
		af1	af1	熔却灰を主体とする。	
完新世	RDF	af2	af2	固形肥料を主体とする。	
		wa(m)	wa(m)	汚泥類を主体とする。	
第四紀	埋土	b	b	廃棄物と土質の混合物。	
		af1	af1	廃棄物を含まない埋土及び廃棄物の埋土。主にローソンの土質。	
完新世	埋土	af1	af1	山頂や谷間に分布する軟質で細かい礫・砂・粘粒土。	
		af2	af2	ハミス、スコリア等を主体とする火山性噴出物で軽石、浮石を含む未固結層。	
第四紀	埋土	af1	af1	ローソを主体とし火山灰を含む凝結の火山性噴出物からなる未固結層。	
		af2	af2	当該地においては埋土層に相当する。埋土層の不均一な埋土層を多く含む。マトリクスは埋土層で全体に軟質の面状層。	
完新世	埋土	Pf	Pf	火砕流堆積物	
		Tb	Tb	凝灰岩	
第四紀	埋土	af1	af1	凝灰岩	
		Tb	Tb	凝灰岩	

柱状図凡例

地質記号	
主記号	副記号
美土	バーク
埋土	熔却灰
粘土	RDF
シルト	泥
砂	混合土
礫	粘土質
礫質土	粘土混じり
火山灰	シルト質
ローソ	シルト混じり
ハミス	砂質
軽石	砂混じり
有機質土	凝結じり
凝灰岩	風化土
凝灰岩	軟岩



縮尺 H:1:2,000, V:1:400